

磁石の力にわくわく



仙台・中野小

応用物理学会が理科教室

◇ 実験を通して科学技術への興味を深めてもらうと、応用物理学会東北支部などは6月28日、東日本大震災で被災した仙台中野小(児童68人)で、出前授業「リフレックシユ理科教室」を開いた。

◇ 被災地支援として学会の東海、九州両支部も協力した。各支部から大学の教官ら24人が、リニアモーターカーの原理で知られる超電導などの実験や演習を実施。5、6年生28人を対象にした電磁石の実験では、日本人が発明した世界最強の永久磁石「ネオジム磁石」が電磁石の力で銅線が回り出すと、児童は目を輝かせて喜んだ。

児童、単極モーター製作

紹介された。

子どもたちは、ネオジム磁石やナット、単3電池、銅線などを材料に「単極モーター」の製作に挑戦した。30分以上かけ銅線が回り始めると、「動いた」「僕の方が早い」などと歓声を上げた。

出来栄の良かった児童7人には優秀賞の表彰状が授与された。5年の松本拓真君(10)は「銅線を曲げるのが大変だった」と笑顔で話した。

午後には、保護者らも対象に東北支部長の安藤康夫東北大教授が「磁石の不思議」と題して講演。パソコンや携帯電話など、身近な製品に利用されている磁石の仕組みを説明した。